

会津三十三観音に関する WEB サイトの提案

A2201505 伊藤 聡美 A2201526 山内 かえ

研究の背景

平安時代初期、僧・徳一によって会津の仏教文化は花開いた。現在も徳一が開いた慧日寺や勝常寺等、貴重な仏閣が多く存在し、会津は仏都会津と呼ばれている。2016年6月には「会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～」が日本遺産に認定された。江戸時代に会津藩祖保科正之公が定めた会津三十三観音は昔からの信仰の姿を今に残している。インターネット上で会津三十三観音と検索すると約14.6万件と検索結果が表示された。会津三十三観音を取り上げているサイトが多く存在することがわかる。しかし、それぞれのサイトを閲覧した結果、札所の由来や寺院が所有している文化財等を紹介しているサイトは数少ない。私たちは三十三観音についての取材を行い、そのコンテンツをWEBサイトで公開する。

研究の目的

会津三十三観音に興味を持ってもらうだけでなく、仏都会津と呼ばれる会津の歴史的な価値や魅力を知ってもらうことが目的である。現地へ行くまでの道のりや周辺情報を取得しやすくするためにスマートフォンに対応したサイトにする。現在、会津三十三観音に関するWEBサイトの多くはPCの画面で閲覧することを想定したデザインが多い。PC・スマートフォンそれぞれの画面サイズに合わせたサイトにするため、レスポンス WEB デザインを念頭にWEBサイト制作を行う。

研究のプロセス

○調査

・会津三十三観音を取り上げているサイトの調査（調査対象：検索上位20サイト）

<調査項目> 計7項目

歴史 会津ころり 巡礼の際の注意事項 札所 御詠歌 地図 レスポンス WEB デザイン

・会津三十三観音についての現地調査（33ヶ所+番外3ヶ所）

サイト調査の結果(表1)、歴史・会津ころり・巡礼の際の注意事項を取り上げているサイトは少ないことがわかった。札所の情報は各札所の本尊、住所等は記載しているが、由来等の記載は少ない。参拝の際に詠まれている御詠歌についてはその歌の意味について記載しているサイトはないことが明らかとなった。文化財を所有している札所がいくつか存在しているが、その文化財について説明をしているサイトも少ない。また、日本遺産に認定されたことを取り上げているサイトが増えてきているが、実際に認定されたストーリーについて触れていないサイトが多い。

サイト調査の結果から

・札所の由来や寺院が所有している文化財→札所の紹介ともに情報を記載

・会津三十三観音とともに日本遺産についての説明

等をサイト内で取り上げることにした。

表 1 会津三十三観音を取り上げているサイトの調査結果

	歴史	ころり	注意事項	札所	御詠歌	地図	レスポンス
極上の会津プロジェクト協議会	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
会津への夢街道	◎			◎			○
霊地会津巡り		◎		◎	◎	○	○
会津若松市役所	◎					○	
金塔山 恵隆寺				◎		○	
観音霊場一覧				○			
Wikitravel	◎		◎				○
向瀧				△		○	
会津三十三観音霊場巡礼の旅へようこそ!						△	
自転車で会津				◎		○	○
仏都「会津」巡礼の歩き方				△		◎	○
会津三十三観音マップ				○		○	○
まことのすけ御朱印帳				△			
福島県会津三十三観音巡り旅。				△	△		
ニッポンの霊場				○	◎		
とれっちの御朱印帳				○			
いつもNAVI				△		◎	
御朱印をいただく				△			
自転車と車中泊				◎			
会津三十三観音マップ				△			

◎・・・しっかり取り上げていた。 ○・・・取り上げていた。 △・・・少し取り上げている程度だった。

現地調査では、サイト素材となる写真撮影を同時に行った。札所の多くは集落内に存在し、その周りが木々で囲まれていることがわかった。昔から人々の生活に中心となっていると感じた。札所がある集落までは地図を頼りに行くことが可能だ。しかし、集落の中にあるということから車で訪れた方が車を駐車するスペースがないことが明らかとなった。

○制作

・会津三十三観音に関する WEB サイト

会津三十三観音について説明するページ（日本遺産に認定されたストーリー等もそこで記載）

33ヶ所+番外3ヶ所を紹介するページ

巡礼の際の注意事項のページ

駐車場に関しては巡礼の際の注意事項、札所紹介のページに記載

今回制作するサイトは大人から子供まで全ての人の興味関心をひき、親しみやすい雰囲気の良いサイトにする。

・企画したコンテンツ

(山内)会津三十三観音の歴史をインターネット・文献調査し、イラスト化する。

サイトで公開する際、アニメーションを加えて歴史を紹介する。

(伊藤)近年、VR技術が発達し、VRを使用したコンテンツが増えてきている。その中のひとつに全方位カメラがある。360°周囲の写真や動画を撮影することが可能であり、そのカメラで撮影した画像をWEB上で公開し、観光サイトでVR表現を取り入れる。

A-Frameを使用して札所周辺等のパノラマ画像を掲載。マウス・指の操作により、周囲の様子を知ることができるようにする。

成果物(完成作品)

○会津三十三観音の歴史紙芝居

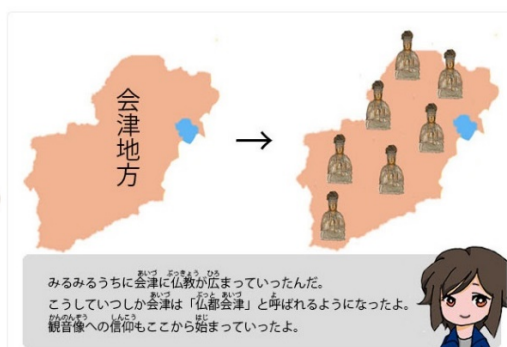
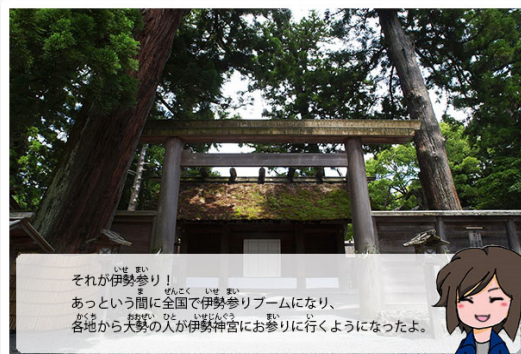


図1 スライドの一部を抜粋

イラスト、文字、写真を組み合わせて作成した。興味、関心を惹くために文字だけでなくイラスト、写真を加えての解説をする。文章からの情報、視覚から得られる情報を分かりやすく表示するよう心がけて制作した。jQueryを使用してスライド形式の紙芝居にすることで扱いやすく見やすい形にしている。対象は子供から高齢者まで幅広い年齢層に親んでもらうため、文字のサイズを大きめにし、子供にも読めるよう振り仮名を振った。また、このスライドで登場するナビゲーション担当のキャラクター「イマ」は、前年度の卒業研究「会津の祈りプロジェクト」の「祈りの今と昔」に登場するキャラクター「みらい」と「かこ」のイメージを踏まえてデザインした。このことにより「会津道中札所巡り」と「会津の祈りプロジェクト」を関連付けている。スライドの内容を解説するキャラクターなので画面で目立ちすぎることなく、写真やイラストの妨げにならない程度に配置している。

○WEB サイト「会津道中札所巡り」

サイトのTOPには、写真を使用せず、全体を通して一枚の絵をイメージして制作した。背景等に和紙のテクスチャを張り付けることで紙に描かれたような地図を表現している。番外を除く計33ヶ所の札所をイラストアイコンとし、クリックすると札所の紹介ページへと繋がるようになっている。(図2、3)

「会津三十三観音について」というページでは、会津三十三観音に関する歴史や日本遺産に認定されたストーリーについて説明をする。また、そこから会津三十三観音の歴史紙芝居のページにとぶことが可能となっている。巡礼の際の注意事項においては、参拝の仕方、マナー、駐車場に関して記載している。

OA-Frame を用いた札所周辺のビューワー

札所の紹介するページにリンクを設置し、そこから閲覧できるようになっている。別ウィンドウで表示させることで、紹介ページへ戻る負担を減らした。今回使用した A-Frame だが、対応していないブラウザがあるため、推奨環境のページを制作した。また、操作についての説明も記載している。(図 3)



図 2 TOP ページ

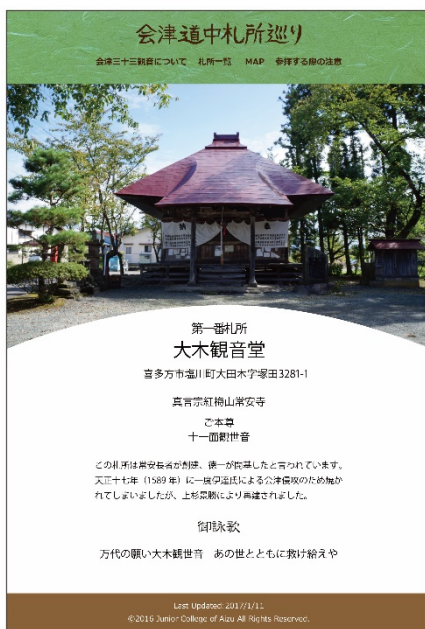


図 3 札所紹介ページ



図 4 札所のイラスト

考察

WEB サイトを制作するにあたって調査等で気をつけるべき点があつた。札所を調査する前にサイトに必要な内容を決めることである。先に必要な内容を決めておくことで 33ヶ所+番外をスムーズに調査することができた。その他にも、全方位カメラを使用して撮影するにあたり問題があつた。今回は風景を撮影したため撮影者が写らないように対策をとる必要があり、今回は、三脚を使用して撮影を行うことにした。スマートフォンにアプリをインストールし、遠隔操作で撮影を行えるようにした後、撮影者本人は物陰に隠れ撮影することにした。

三十三観音堂のアイコンデザインをしていくにあたって特に工夫をした点は、見た側にどこの寺なのか伝わるよう色と屋根の形を重点的に描くということであつた。写真を参考に描いたので日の当たり具合や撮影時の天気によって色合いが濃くなったり、白みがかっていたりということがあつた。また、入り口にもそれぞれ特徴があり、人が正面から出入りできる設計や、扉は無く窓だけという設計がされている寺があつた。細かい部分であってもそこが同じ形状の寺はないので細かいところも慎重に描き、色をつけていった。

紙芝居を作る際、とにかく重要視したのは誰にでも見やすいデザインを心がけたことであつた。全年齢対象としているので一目見ただけで動かし方が分かるよう矢印を入れ、文字を大きくし振り仮名をつけ誰にでも読みやすいよう工夫した。

今回制作した WEB サイト「会津道中札所巡り」は会津三十三観音を知るための入口となるサイトである。このサイトを閲覧した方が会津に訪れ、仏都会津のことを知り、昔からの日本の文化に関心を持ってもらうきっかけともなるだろう。また、日本遺産に認定されたことで調査の結果判明した問題向き合う良い機会であるのではないだろうか。